

奥多摩 ヨシスキ沢～ボウメキ沢 沢登り報告

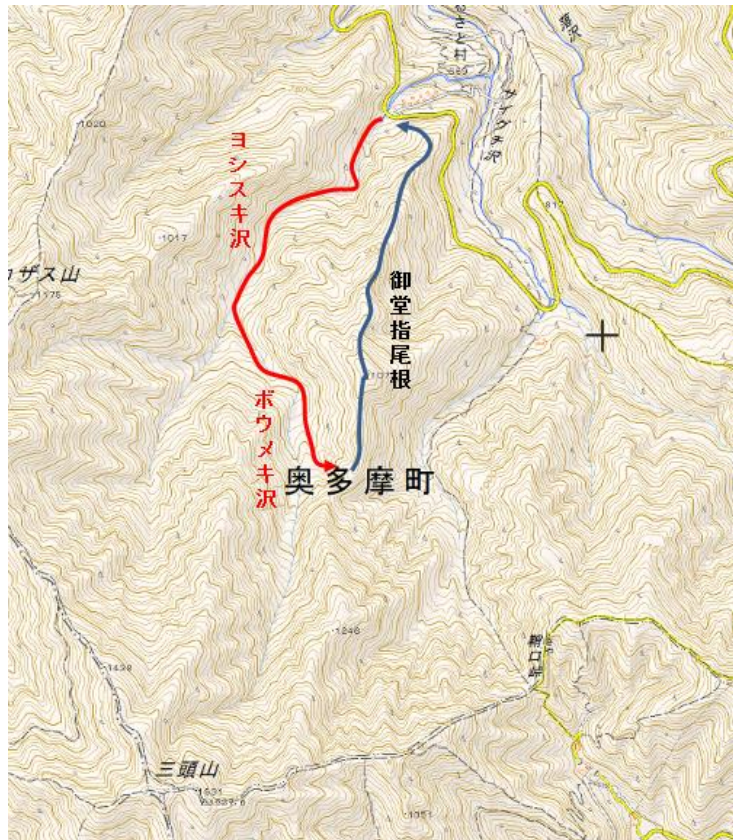
(山 域) 奥多摩

(日 時) 8月19日 土曜日

(天 候) 雨→晴れ時々曇り→雨

(参加者) CL 柘植、SL 藺田、石井、松本 (記)

(行 程) 津田沼 5:10⇒中央道八王子 IC⇒7:40 奥多摩湖周遊道路ゲート 8:00⇒8:05 駐車スペース
⇒8:30 入溪→(ヨシスキ沢遡行) ボウメキ沢出合い 10:10⇒木橋 10:20⇒御堂指尾根稜線
11:05⇒(御堂指尾根下山) 奥多摩周遊道路 12:15⇒駐車スペース 12:20



(記 録)

8月に入ってから記録的な悪天候により中止となった葛根田川沢登りの代わりに週末の天気何とか持ちそうな日を狙って、リーダーの柘植さんが日帰りの沢登りを計画してくれた。ネットにもあまり情報がない奥多摩三頭山の北側にあるヨシスキ沢～ボウメキ沢という沢である

朝、家を出る時間は雷と雨で空は真っ黒だった。予報では午後から雷雨になるという。心配しながらも奥多摩湖へ着いた時には薄日が差して気温も上がってきた。奥多摩周遊道路のゲートが濃霧のため8時まで通行止めだったため、20分の待ち時間の間に沢装備を整える。

8時にゲートが開いて先に進むと左右に10台ほど停められるスペースがあり、そこに駐車して5分ほど道路を歩くと目的のヨシスキ沢にかかる橋に着く。橋を渡った道路脇の階段を上がって山に入る。取水している管の先より入溪。20分ほど歩くと大きな滝が現れる。ガイド本では4mとなっている。リーダーが右側を直登しロープを出してもらい後に続く。後日 web の記録の写真を見たら水量が倍以上に見えた。やはり連日の雨で水量が多いのであろう。その後も小滝やプチなめ風滝を次々と超えていく。それらは石井さんのガイドブックの遡行図では滝とは記されておらずゴーロとなっている。

私にとってははれっきとした滝に見えるが、書いた人にとってはゴーロのようだ。

深い釜がありそうな滝は CL が腰まで浸かって水中から取りついて登ったが、後続は右側上部を巻いた。



駐車スペースから元気にスタート



最初の滝場



4m滝は右から取付いて登る



小さな滝も水量が多いので大迫力



ジェット水流の脇を登る



深い釜をへつつ滝にとりつく

チョックストーン滝？は取りつきも難しそうな上にドドドと流れ落ちる水の迫力に負けて！？左を高巻きした。ほどなくして 4mの滝。本日 2 回目のロープを出してもら。この時、一手目で掴んだホールドが力を入れた際に 1 メートルほどの岩の塊ごと剥がれそうになり慌てて負荷をかけるのをやめた。後から登る人事を考えると落としてしまった方が良かったのか、後から疑問に思ったがもう戻れない。ここでは結構な勢いで顔にも水を浴びてとても気持ち良かった。

やがて二俣となり左のボウメキ沢へ入る。御堂指尾根とマジックで書いてある木橋があるがここは涸沢であった。しばらく歩くと少しづつ水の量が増えてくるが倒木が酷く、歩きづらくなってきた。天候が安定していれば登り詰めて三頭山頂まで行く予定だったが、明るいながらもかすかに雷鳴が聞こえたので、緩やかで開けたクルミ林で休憩を取り、エスケープルートの御堂指尾根を目指した。詰めはさほど距離もなく藪でもなかったのですが速さは出ないが難しくはなかったように思う。

登り着いた尾根で沢装備を外し、風にあたりながら下山開始するも、そこはキノコ街道であった。



奥にチョックストーン滝（近づくことも無理）



二俣は左のボウメキ沢に入る



3m くらいの小滝だが



跳ね飛ばされそうな勢いの水流を跨ぐ



木橋の先でボウメキ沢とも別れて休憩



御堂指尾根に出る



御堂指尾根の途中にあった注意書き



無事に入山地点に降りてきました

キノコを撮影するのに時間をかけてしまったため、後はひたすら転ばないように足元に気を付けながら皆の後を追いかけているうちに、初めの導水管の場所に出た。舗装路にでてからも車やバイク、自転車がひっきりなしに飛ばしてくるので注意を怠らずにいないといけない。いつの間にか空には太陽が出ており、アスファルトの照り返しに汗が出てくる。後ろ髪を引かれる思いがあったが、これから大雨が降る筈だからと帰り支度をした。

帰りは奥多摩ではなく、奥多摩周遊道路から数馬に下った。数馬の湯で汗を流すが、肌がつるつるして気持ちよかった。払沢の滝入口の有名なお豆腐屋さんへ寄り、とうふソフトと菌田さんが買った1丁の絹ごし豆腐を4人でシェアしていただいた。ちば山で良く利用するという中華屋さん（あきるの市の東京亭）で食事をし、八王子インターより帰路についた。中央高速では少し渋滞にはまり、そうこうしているうちに都内に入る頃、予想通りの雷と大雨。しかし津田沼に 18:00 に着いた時にはほぼ止んでいて一度も濡れる事なく帰る事が出来た。雨が我々の通るルートを避けてくれたのか、我々が雨から逃げきったのか、どちらでもないとは思いますが、とてもラッキーな日であった。

【下山した御堂指尾根の途中で出会ったきのこ一覧】

